

火縄銃の発射み

1. 装填

火縄銃は前装式である。銃口から火薬を注入し、弾丸を挿入し、ラムロッドで全体を押さえる。

2. 点火

次に銃を水平にし、火皿に粒の細かい火薬を入れ、素早く蓋を閉める。蓋をすることで、火薬が濡れたり、こぼれたり、誤って点火したりするのを防ぐためである。火薬の量が少ないと、主装置に点火されずに爆発し、火皿の中で発火することになる。

3. 準備

撃つ時は、銃の蛇腹の先に火のついた火縄をはさみ、火皿の蓋を開ける。

4. 照準調整

左手で銃身を支え、銃床を頬に当て、銃身の前後の照準を合わせて狙いを定める。

5. 発射

砲手が引き金を引くと、ばね仕掛けの蛇腹が外れ、火のついた火縄が火皿に接触する。火薬が燃え上がり、銃身内の主薬に引火して爆発し、銃から発射された弾は標的の方向に進む。

時間の節約：早合

火縄銃は装填に時間がかかり、面倒であった。この作業を早くするために、鉄砲隊は早合（火薬と弾を竹筒のような携帯用の容器に入れたもので、現在のカートリッジ弾の前身）を発明した。

早合は、カートリッジと異なり、銃に直接差し込むことはない。紙で覆われた端をちぎって、中身の銃弾と火薬を銃口に流し込んで使用した。鉄砲隊は早合をベルトや装弾ベルトに入れて持ち歩き、戦場では生死を分ける貴重な一秒一秒を節約した。